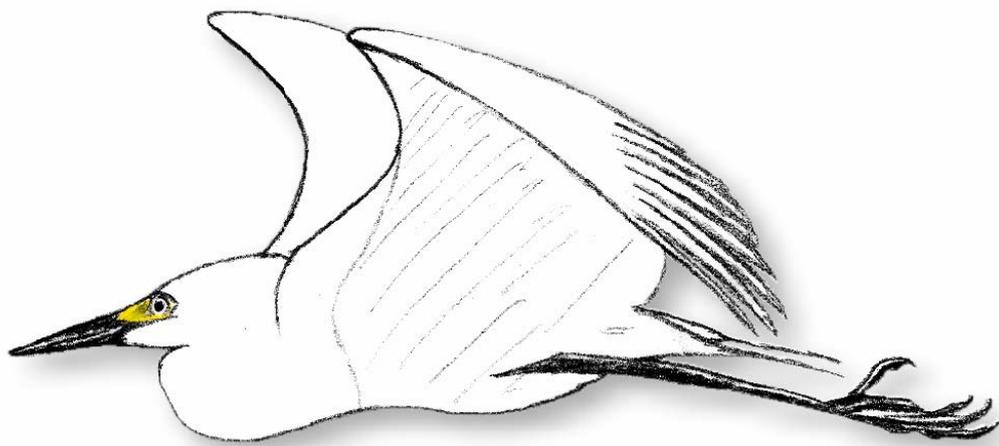


# 田んぼの鳥サギ類



チュウサギ(中鷺、学名 : *Egretta intermedia*)

# サギってどんな鳥？

みなさんはサギという鳥にどんな印象を持っていますか？

- 純白でスリムな体を持ったとても美しい鳥！
- 日本の田んぼに暮らす代表的な野鳥！
- 集団で繁殖し糞で洗濯物や車を汚す迷惑者！
- 止まっていると置物みたい！
- など、など！

感じることは人それぞれだと思いますが、スズメやツバメ、ヒヨドリなどと同じように、日本各地で見ることが出来る最も身近な野鳥の一つです。

サギの仲間の多くは魚やカエル、ザリガニなどをエサとしています。そして、それらの生きものが暮らす水辺が彼らの住みかです。

日本には幸い、広大な水辺があります。それは田んぼです。そして、そこでは多くのサギたちが暮らしているはずですよ。

人間が作り出した環境である田んぼとともに生きているサギたちについて、少しその暮らしぶりを知ってみませんか？



飾り羽を広げるチュウサギ

# サギの特徴

- コウノトリ目サギ科に属する鳥を総称してサギ（鷺）と呼んでいます。
- サギ科の鳥は世界では65種が知られ、そのうち日本では19種が記録されていますが（表1）、小笠原諸島に生息していたハシブトゴイは既に絶滅してしまいました。
- 水辺を主なすみかとする水鳥で、長いくちばしと、長い脚を持っています。また、ダイサギやコサギなど首の長い種類もあります。
- 飛ぶときに首をS字に折り曲げるのが他の鳥にはない特徴です（図1）。
- 多く種類は雌雄同色です。
- 繁殖期になると頭や胸、背中に美しい飾り羽を持つものもあります。
- サギ類の中には、竹林、雑木林、マツ林等に数種類のサギが集まって集団繁殖地（コロニー、サギ山）をつくるものもあります。
- 魚やカエル、甲殻類などを主なエサとしていますが、アマサギのように昆虫も主なエサしている種類もあります。

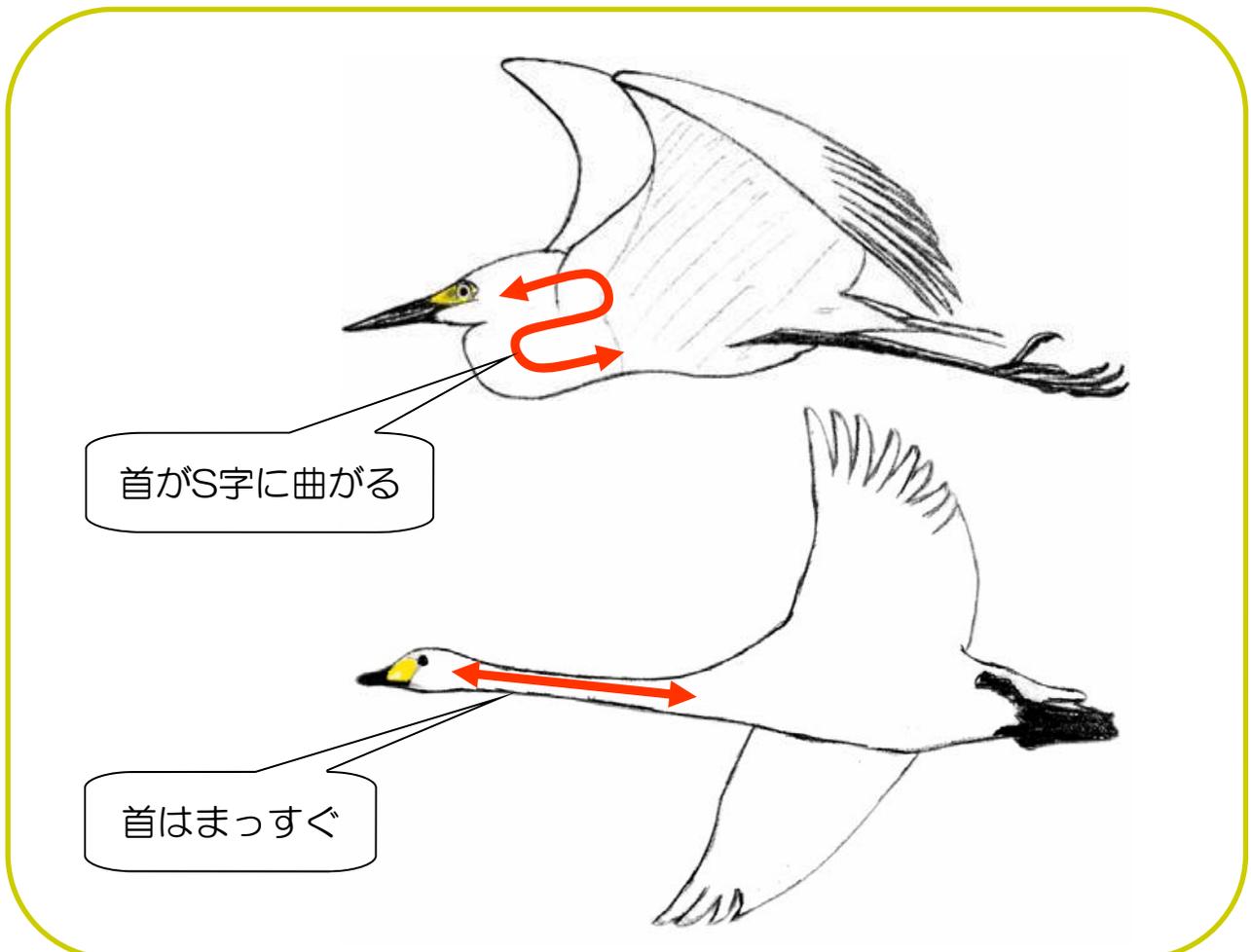


図1 サギとハクチョウの飛ぶ姿

# 日本産サギ類

- 日本で記録されているコウノトリ目サギ科の鳥（サギ類）は19種です。

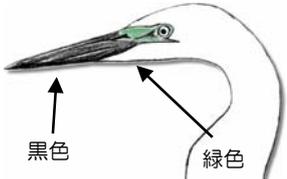
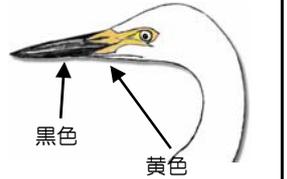
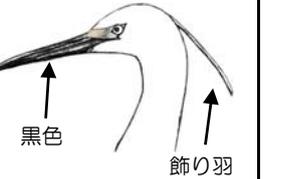
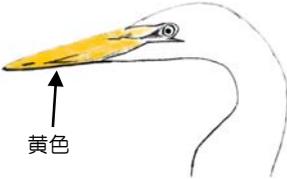
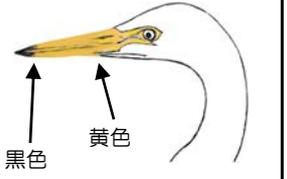
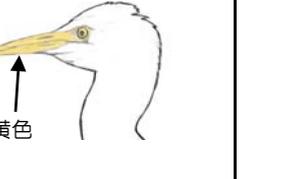
表1 日本産サギ科鳥類

種和名	学名	英名	環境省レッドリスト
アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	Grey Heron	
ムラサキサギ	<i>Ardea purpurea</i>	Purple Heron	
アカガシラサギ	<i>Ardeola bacchus</i>	Chinese Pond Heron	
サンカノゴイ	<i>Botaurus stellaris</i>	Eurasian Bittern	絶滅危惧 I B
アマサギ	<i>Bubulcus ibis</i>	Cattle Egret	
ササゴイ	<i>Butorides striatus</i>	Striated (Green) Heron	
ダイサギ	<i>Egretta alba</i>	Great Egret	
カラシラサギ	<i>Egretta eulophotes</i>	Swinhoe's Egret	情報不足
コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	Little Egret	
チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>	Intermediate Egret	準絶滅危惧
クロサギ	<i>Egretta sacra</i>	Eastern Reef Heron	
ミソゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>	Japanese Night Heron	準絶滅危惧
ズグロミソゴイ	<i>Gorsachius melanolophus</i>	Tiger Bittern	準絶滅危惧
リュウキュウヨシゴイ	<i>Ixobrychus cinnamomeus</i>	Cinnamon Bittern	
オオヨシゴイ	<i>Ixobrychus eurhythmus</i>	Schrenk's Little Bittern	絶滅危惧 I B
タカサゴクロサギ	<i>Ixobrychus flavicollis</i>	Black Bittern	
ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis</i>	Chinese Little Bittern	
ハシブトゴイ	<i>Nycticorax caledonicus</i>	Rufous Night Heron	絶滅
ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	Black-crowned Night Heron	

# シラサギ？

- 日本で記録されたサギ類は19種類ですが、そのうち、体全体の羽が白いダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギの4種を通称「シラサギ」と呼んでいます。これは「白いサギ」の総称です。ですから正確にはシラサギという名前のサギはいません。
- シラサギと呼ばれているサギ4種は何れも田んぼを主な生活の場としています。そのため、同時にいることも少なくありません。一見、どれも白く同じように見えますが、どのようにしたら見分けることができるでしょうか。識別ポイントを見てみましょう！（表2）

表2 シラサギ類4種の見分け方

ポイント		ダイサギ	チュウサギ	コサギ	アマサギ
体の大きさ (全長)		大 (90cm)	ダイサギよりかなり小 (68cm)	チュウサギよりやや 小(61) cm	コサギより小 (50cm)
見られる時期		主に夏、冬に見られる こともある	本州中部以南で夏、ま れに冬も残る	東北・北海道は夏、 本州中部以南は一年 中	本州中部以南で夏、 冬に残る地域もある 中
頭やくちばし の色やかたち	夏				
	冬				
		チュウサギやアマサギ に比べくちばしが相対 的に長い。	ダイサギやコサギに比 べくちばしが相対的に 短く太い。冬羽でもく ちばしの先端に黒が残 る。	くちばしの色が夏冬 ともに黒い。チュウ サギに比べくちばし の長さは相対的に細 長い	夏羽では頭や背、胸 が橙色になる。くち ばしは太く短い。
足の色		黒	黒	黒	黒
指の色		黒	黒	黄色	黒
飛ぶ姿					

# サギの暮らす場所

- 魚やカエル、甲殻類をエサとしているサギ類にとって、エサとなる生きものが暮らす水辺は無くしてはならないものです。では、どれくらい水辺に依存しているのでしょうか？
- 図2はサギ類がどんな場所にいたのかを調べた結果です。これを見ると、ほとんどのサギ類が水田やその周りの水路、そして池や沼で暮らしていることが分かります。水田と水路、池、沼にいたサギ類を合計すると全体の96%にも達します。このことからサギ類が水辺それも人間が作り出した田んぼに強く頼って生きていることが分かります。
- 次に、サギの種類によっている場所は違うのでしょうか？
- 図3が種類ごとにいた場所をまとめたものです。これを見ると、種類によっている場所が少し違うことが分かります。アマサギやチュウサギはほとんどが田んぼにいますが、ダイサギやコサギ、アオサギは水路にもかなりいることが分かります。この様な違いの理由はまだよく分かっていません。

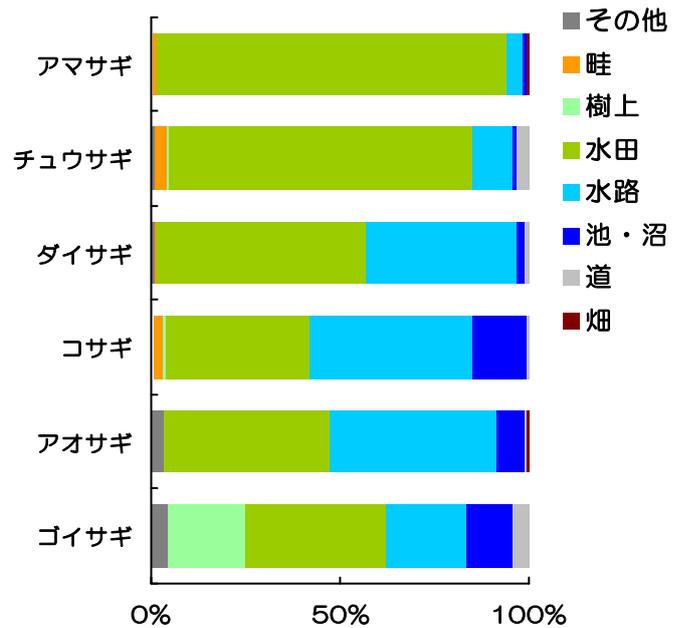
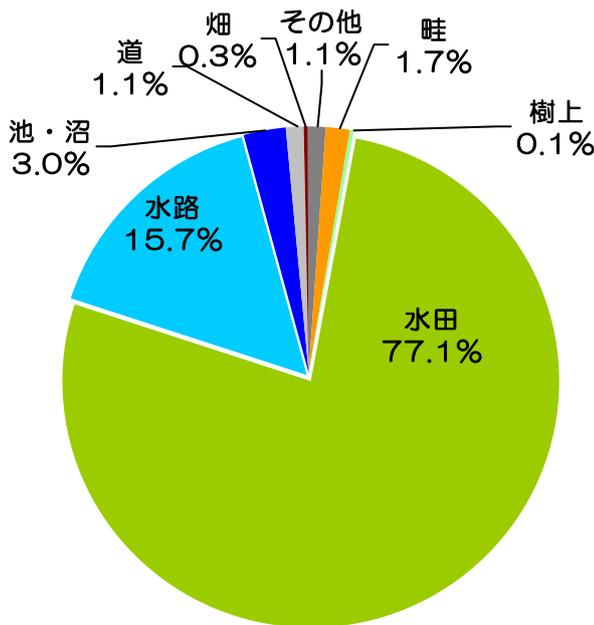


図2 サギ類が暮らす場所(埼玉県)

図3 種類による違い(埼玉県)



水田にいるチュウサギとコサギ



川にいるアオサギ

# サギ山ってなに？

- 日本に生息するサギ類のうち、シラサギと呼ばれているダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギの4種とゴイサギ、アオサギの計6種がサギ山と呼ばれる集団繁殖地（コロニー）を形成します。
- 環境省が以前行ったサギ類コロニー調査によると、サギ山が造られた林は、竹林、落葉広葉樹林、スギ・ヒノキ林、マツ林など様々ですが、関東と関西ではやや傾向が異なりました。関東では竹林が多く、関西では落葉広葉樹林に多くのコロニーが形成されていました。
- この様なサギ山は現在でも日本各地にありますが、全国各地に「鷺山」という地名がたくさん残っていることから、かつては現在よりもさらに多くのサギ山があったと考えられています。
- また、近頃はとかく嫌われるサギの糞ですが、かつてはサギ山の地面に大量に溜まった糞は、掛け替えのない窒素肥料として大切なものでした。
- 埼玉県さいたま市上野田地区には全国的にも有名な「野田の鷺山」と呼ばれた巨大なサギのコロニーがありました。国の天然記念物にも指定され最も多い時には、5,000以上の巣が作られ、総個体数は20,000～40,000羽にも達したとされています。しかし、水田転作による畑地化や、農薬や化学物質によると考えられるへい死の増加により1972年に消えてしまいました。
- いまなお、各地でサギ山は見る事が出来ますが、その数は減少傾向にあるようです。



埼玉県越谷市のサギ山



埼玉県久喜市のサギ山

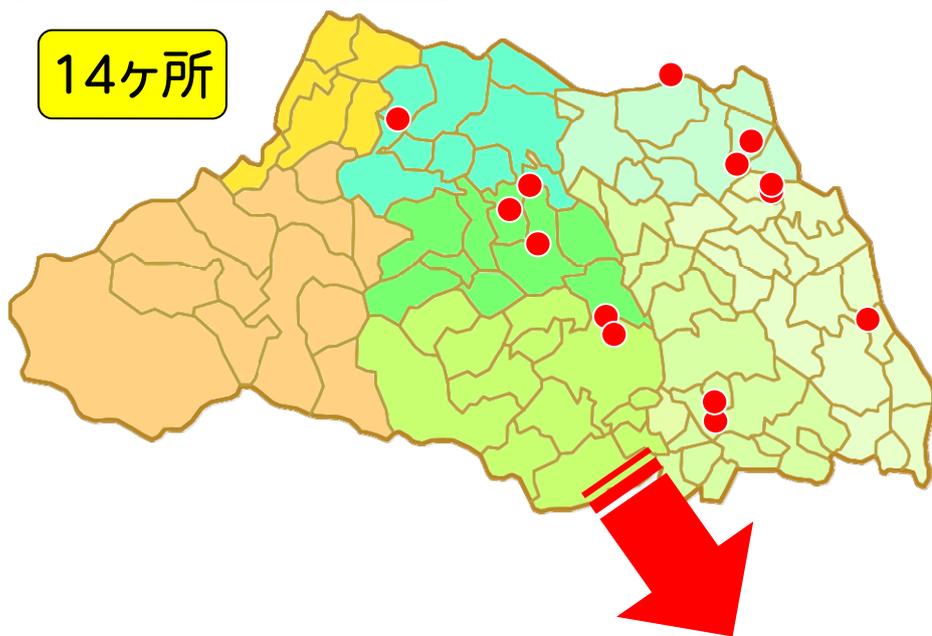
# サギ山が減っている！

- 田んぼを主なすみかとするサギ類は、かつては日本国中にたくさん生息していました。しかし、水田転作で田んぼが減ってしまったり、田んぼが近代化することで、サギのエサとなる魚やカエルにとって住みにくい場所になってしまったため、サギ類の数は以前よりは少なくなりました。そして、サギ類の集団繁殖地サギ山も減少傾向にあります。
- 埼玉県では1992年と2003年にサギ山の調査が行われましたが、サギ山の数は14ヶ所から5ヶ所と、約3分の1になってしまいました。

## 埼玉県のサギ山の移り変わり

1992年の調査では

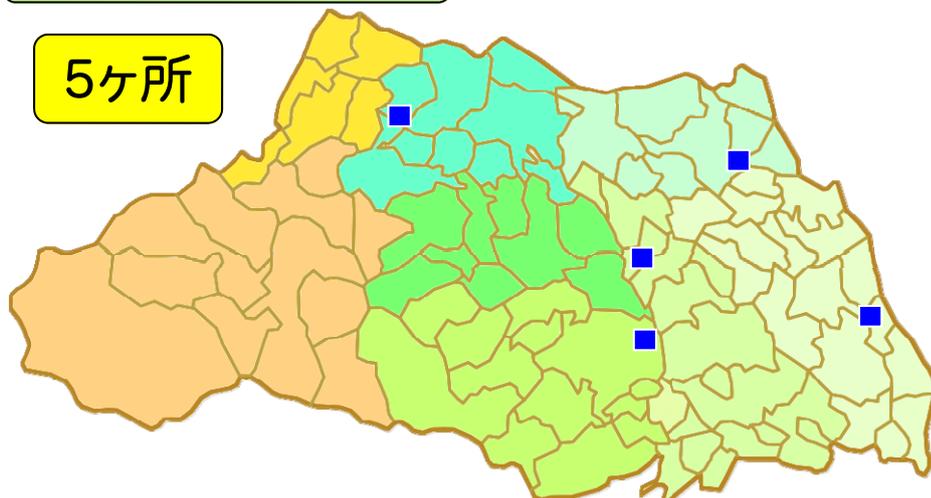
14ヶ所



ゴイサギ  
(五位鷺、*Nycticorax nycticorax*)

2003年の調査では

5ヶ所



# 田んぼで暮らす主なサギ類

ダイサギ <i>Egretta alba</i>	チュウサギ <i>Egretta intermedia</i>	コサギ <i>Egretta garzetta</i>
		
<p>体長：90cm            特徴：全身が白色で日本のシラサギ類では最も大きい。繁殖期には背に長い飾り羽を生じ、嘴は黒、眼先は青緑色となる。冬羽は嘴が黄色くなり眼先も黄緑色となる。水の中をゆっくり歩き、獲物を見つけると長い首をさっと伸ばして捕らえる。あしが長いので、深い場所もえさ場として利用することができる。</p>	<p>体長：68 cm            特徴：全身が白色のサギで、日本には主に夏鳥として渡来する。コサギより一回り大きく、ダイサギやコサギに比べ相対的に嘴がやや短くずんぐりして見える。嘴と脚は黒く眼先の黄色が特徴。胸や背に飾り羽がある。河川よりも水田や草地で餌を採ることが多い。環境省レッドデータブックでは準絶滅危惧種に指定されているが、埼玉県では夏場最も普通に水田で見られるサギ類。</p>	<p>体長：61cm            特徴：最も普通に見られるシラサギ。全身白色で一年を通じて嘴が黒い。夏羽は後頭に2本の長い冠羽があり、背や胸に細長い飾り羽が出る。足は黒く、足指は黄色い。埼玉県内でも水田や河川敷で普通に見られる。</p>
アオサギ <i>Ardea cinerea</i>	ゴイサギ <i>Nycticorax nycticorax</i>	アマサギ <i>Bubulcus ibis</i>
		
<p>体長：93cm            特徴：日本のサギ類の中で最も大きく、翼を広げると1.6mにも達する。体の上面は灰色で下面白く黒い縦すじがある。嘴と脚は黄褐色で眼先は黄緑色。繁殖期には嘴の基部、眼先、脚が赤い婚姻色になる。歩いたり、待ちぶせしたりして魚類やカエルを捕らえる。埼玉県内では、それほど多くはないが、河川や水田などで見ることが出来る。</p>	<p>体長：57cm            特徴：成鳥は頭頂から後頭、背にかけて暗い紺色で後頭には数本の白い冠羽がある。下面は白く、翼は灰色で嘴は黒く、脚は黄色。普段は夜行性で昼間水辺近くの茂みで集団で休んでいる。夕方になると採食場へ向かい、魚類やザリガニを捕らえる。夕方に「グァッ、グァッ」とカラスに似た声で鳴くため「ヨガラス」の俗名をもつ。コロニーをつくって繁殖する。</p>	<p>体長：50cm            特徴：夏鳥として日本に渡来し本州以南で繁殖する。日本に分布する白いサギ類の中では最も小さい。成鳥の夏羽は頭から胸と背にオレンジ色の飾り羽があり大変よく目立つ。嘴はオレンジで脚は黒、コサギに比べ足が短く嘴も相対的に短い。他のサギ類より乾燥した場所を好み、カエルや昆虫などもよく餌として利用する。</p>



チュウサギ

## 田んぼの鳥サギ類 Ver.1.1

住民参加による生物保全水利施設の維持管理マニュアル  
ツール名 : 「サギ類の生態」  
制作者 : 埼玉県環境科学国際センター 嶋田知英  
発行年月日 : 2008年7月21日